

◆地域活動

藻体付き保存網の再生試験

(ヒトエグサ養殖指導)

水産海洋技術センター 大城 信弘

1. 背景・目的

昨年度に引き続き、藻体付き保存網の越冬再生試験を試みた。

昨年度は、終期の藻体・網を用いたので、今期は、早い時期の網を用い、比較を行った。

2. 方法

網の保存は、軽く洗浄後天日干しで半乾燥状態にし、ゴミ袋に入れ、それを冷凍、冷蔵、常温保管し、種取りシーズンに順次養殖現場に張り出した。

設置した網の経過は以下の通り。

①平成27年2月12日に、屋我より、本張り前の5枚セットの上部2枚を回収。水道水で軽く洗浄後、海水で濯ぎ、5時間程度天日干し後、ゴミ袋に入れ、更に段ボール箱に入れて、栽培漁業センターの大型冷凍庫で保管した。

10月15日に、その内の1枚を、他に冷蔵保存された網1枚と、常温保存された網1枚の3枚を重ねて、現場に張り出した。

冷凍保存の残り1枚は、10月23日に、屋内1tパンライトに収容し、止水・通気で、KW肥料20mLを添加して、保持した。その後、10月28日に、此れまでの網の上に重ねて、現場に張り出した。

②平成27年2月18日に、本張り前の3枚を回収し、1枚は、軽く洗浄後、6時間程度干し、ゴミ袋に入れ、更に段ボール箱に入れて、栽培漁業センターの冷蔵庫で保存した。

他の2枚は、ゴミ袋に入れ、70Lのポリタルで、木陰で保存した。

その内の1枚は、冷凍保存の網1枚と共に、10月15日に現場に張り出した。

③平成27年3月23日に2枚を回収し、水道水で軽く洗浄後、海水で濯ぎ、湿気たままゴミ袋に入れ、木陰でポリタルで保管した。

此れ等は、2月18日回収の1枚を重ね、10月14日に現場に張り出した。

3. 結果

何れの網も、設置翌日から白化が起り、1週間内で殆ど消失し、11月6日の肉眼での観察では、冷凍・冷蔵網の基部に、極僅かに緑色部が観られる程度であった。

11月9日の顕微鏡観察では、冷凍、冷蔵保存網では、ヒトエグサの芽生えが、大きなのは3mm程度に達していたが、常温保存網は、殆どがアオノリ類であった。

その後、冷凍保存で一時的に室内のパンライトに収容された網を除き、常温保存網にもヒトエグサが確認され、2月末には収穫サイズ迄成長した。

4. 考察

11月11日の顕微鏡観察では、10月11日に天然採苗で張り出した網は、ヒトエグサ葉体が0.2mm~0.7mmに達していたが、藻体付き保存網では、大きなものでも0.6mm程度であり、今回も、昨年同様で保存網のヒトエグサ葉体からと思われる生育は確認出来なかった。

但し、昨季に引き続き、今期も、冷凍保存のパンライト収容網を除き、ヒトエグサの発生・生育は良好であった。

同所での、天然採苗網の一部には、種着き不調も観られた事から、藻体保存網には、何らかの好条件が備わっていると考えられ

る。

採苗時に、リボンでの汚れ対策も行われており、残った藻体が、その役目を果たしている可能性もあり、要因解明が望まれる。



図1 冷凍保存網（10月20日）



図2 本張り前の状況（12月22日）



図3 本張後の状況（2月9日）